

「第2の警告（2）」

ヘブル4：1～13

1. はじめに

(1) この手紙が書かれた理由を再確認する。

- ①信仰が後退しつつあった第2世代のメシアニック・ジューたちへの励まし
- ②彼らは、迫害と誤った教理に直面し、元の信仰に回帰しようとしていた。
- ③手紙の内容は牧会的であり、実践的である。

*教理的教えの合間に、警告の言葉が挿入句のように出てくる。

*この箇所は、2回目の警告である（第1の警告は、2：1～4）。

(2) キリストを拒むことは、モーセを拒むこと以上に罪深い行為である。

- ①前回は、詩95篇を引用することで、そのことが論証された。
- ②詩95篇のテーマは荒野でのイスラエルの民の不信仰である。
- ③特に、カデシュ・バルネアでの出来事が重要である。
 - *12人のスパイたちの報告を聞いて、民は不信仰に陥った。
 - *その結果、彼らはカナンの地に入る前に死ぬことになった。
 - *これは、彼らが霊的に滅びたということではない。
- ④この手紙の読者たちは、カデシュ・バルネアと似たような場所に立っていた。
 - *彼らは、12使徒たちが伝える福音を聞いて、それを信じた。
 - *もし不信仰に陥り、エジプト（ユダヤ教）に回帰するなら、祝福を失う。
 - *これは、彼らが霊的救いを失うということではない。

2. アウトライン

- (1) 神の安息を失う危険性（1～10節）
- (2) 神の安息に入れという奨励（11～13節）

結論：

- (1) 神のみことばの5つの特徴

第2の警告の内容について学ぶ。

I. 神の安息を失う危険性（1～10節）

1. 1節

Heb 4:1 こういうわけで、神の安息に入るための約束はまだ残っているのですから、あなた

がたのうちのひとりでも、万が一にもこれに入れないうようなことのないように、私たちは恐れる心を持つてはありませんか。

(1) 「こういうわけで」

- ①ヘブ3：17～19で論じてきた内容を土台とした言葉である。
- ②イスラエルの民は不信仰の故にカナンの地に入れなかった。
- ③この手紙の読者たちにも、同じ危険性がある。

(2) この手紙が論じる「安息」には、3種類のものがある。

①カナンの地での安息（過去形の救い）

* 敵との戦いが終わること

②天地創造の安息（未来形の救い）

* 活動の終止のこと

* 現代的意味：キリストの贖いが完成したことを信じ、後戻りしないこと

* 将来的意味：信者が死後に体験する安息（天において、千年王国において）

③安息日の安息（現在形の救い）

* 霊的安息のこと

* 霊的成長に伴う安息のこと

(3) 読者たちは、「神の安息」を失う可能性があった。

- ①ここでの安息は、上記③の霊的安息である。
- ②神は、霊的出エジプトを体験した信者たちに、霊的安息を用意しておられる。
- ③もし不信仰に陥るなら、その霊的安息を失う可能性がある。
- ④「恐れる心」とは、その霊的安息を失うことへの恐れである。
 - * 出エジプトの世代がカナンの地に入れなかったことが教訓となる。

2. 2節

Heb 4:2 福音を説き聞かされていることは、私たちも彼らと同じなのです。ところが、その聞いたみことばも、彼らには益になりませんでした。みことばが、それを聞いた人たちに、信仰によって、結びつけられなかったからです。

(1) 出エジプト世代のイスラエルの民とこの手紙の読者たちは、ともに福音（グッドニュース）を説き聞かされた。

- ①福音の内容は異なる。

(2) イスラエルの民にとっての福音とは

- ①出19：3～6

Exo 19:3 モーセは神のみもとに上って行った。【主】は山から彼を呼んで仰せられた。「あなたは、このように、ヤコブの家に言い、イスラエルの人々に告げよ。

Exo 19:4 あなたがたは、わたしがエジプトにしたこと、また、あなたがたを鷲の翼に載せ、わたしのもつに連れて来たことを見た。

Exo 19:5 今、もしあなたがたが、まことにわたしの声に聞き従い、わたしの契約を守るなら、あなたがたはすべての国々の民の中であつて、わたしの宝となる。全世界はわたしのものであるから。

Exo 19:6 あなたがたはわたしにとって祭司の王国、聖なる国民となる。／これが、イスラエル人にあなたの語るべきことばである。」

*神は、イスラエルの民をエジプトから解放された。

*神は、イスラエルの民をカナンの地に導き入れる。

*神は、イスラエルの民を「祭司の王国」、「聖なる国民」とする。

②出 23 : 20～33 も参照

(3) しかし、神の計画通りにはならなかつた。

①福音（グッドニュース）を聞いただけでは、益にならなかつた。

②神の約束を信仰によって受け取らなかつたからである。

③この手紙の読者たちもまた、神の約束を信仰によって受け取る必要がある。

3. 3～5 節

Heb 4:3 信じた私たちは安息に入るので。／「わたしは、怒りをもって誓つたように、／決して彼らをわたしの安息に入らせない。」／と神が言われたとおりです。みわざは創世の初めから、もう終わつているのです。

Heb 4:4 というのは、神は七日目について、ある個所で、「そして、神は、すべてのみわざを終えて七日目に休まれた」と言われました。

Heb 4:5 そして、ここでは、「決して彼らをわたしの安息に入らせない」と言われたのです。

(1) 「信じた私たちは安息に入るので」

①著者と読者たちは、すでに福音を信じた（過去の事実）。

②その結果、安息にあずかることができる（新共同訳）。（現在の事実）

③この安息は、現在形であると同時に、未来形でもある（へブ 4 : 11）。

(2) 詩 95 : 11 が再度引用される。

①「わたしの安息」とは、神が味わっておられる安息である。

(3) この安息は、「天地創造の安息」である。

- ①創2:2の引用
- ②神は今も、この安息を味わっておられる。
- ③この安息は、神が人間に与えようとされた安息である。
- ④しかし、イスラエルの民は不信仰によってこの安息を放棄したのである。

4. 6～7節

Heb 4:6 こういうわけで、その安息に入る人々がまだ残っており、前に福音を説き聞かされた人々は、不従順のゆえに入れなかったのですから、

Heb 4:7 神は再びある日を「きょう」と定めて、長い年月の後に、前に言われたと同じように、ダビデを通して、／「きょう、もし御声を聞くならば、／あなたがたの心をかたくなにしてはならない。」／と語られたのです。

- (1) ダビデは、詩95篇を通して、神の安息に入る道が開かれていると語った。
 - ①それゆえ、「きょう」という日に神に立ち返れと勧めた。
- (2) この手紙の著者もまた、神の安息に入る道は依然として開かれていると書いた。
 - ①それゆえ、出エジプト時代のイスラエルの民の失敗を繰り返すべきではない。

5. 8節

Heb 4:8 もしヨシュアが彼らに安息を与えたのであったら、神はそのあとで別の日のことを話されることはなかったでしょう。

- (1) ここで語られている「神の安息」は、「カナンの地での安息」以上のものである。
 - ①ヨシュアは新しい世代のイスラエルの民に、「カナンの地での安息」を与えた。
 - ②しかしヨシュアは、霊的成長から来る安息を与えることができなかった。
 - ③ダビデが詩95篇で語っている「神の安息」は、「カナンの地での安息」以上のものである。

6. 9～10節

Heb 4:9 したがって、安息日の休みは、神の民のためにまだ残っているのです。

Heb 4:10 神の安息に入った者ならば、神がご自分のわざを終えて休まれたように、自分のわざを終えて休んだはずです。

- (1) ここでの「安息」は「安息日の安息」である。
 - ①この安息は、ギリシア語で「サバティスモス」である(新約聖書でここだけ)。
 - ②「安息日の祝い、喜び」を意味している。
 - ③神の臨在の喜び、理想的な喜びのことである。

(2) この「安息」は、すべての信者に約束されている。

- ①霊的成長がもたらす安息である。
- ②霊的成長とは、聖霊の導きによって生きている状態である。
- ③その人は、霊的生活の中で起こる基本的な戦いからは自由になっている。
- ④その人は、自分の努力に頼ることは止め、信仰によって歩んでいる。

II. 神の安息に入れという奨励（11～13節）

1. 11節

Heb 4:11 **ですから、私たちは、この安息に入るよう力を尽くして努め、あの不従順の例にならって落后する者が、ひとりもないようにしようではありませんか。**

(1) 「ですから」

- ①4：1～10の内容が土台になっている。
- ②「安息日の安息」に入るように努めようではないか。
 - *これは、現在形の安息である。
 - *これは、霊的成熟から来る安息である。

(2) 不従順なイスラエルの民が反面教師である。

- ①彼らは、神の約束された安息に入れなかった。
- ②彼らは、荒野で死んだ。
- ③そのように、不信仰な状態を続ければ、死を招く可能性がある。
- ④しかし、魂の救いを失うことはない。

2. 12～13節

Heb 4:12 **神のことばは生きていて、力があり、両刃の剣よりも鋭く、たましいと霊、関節と骨髄の分かれ目さえも刺し通し、心のいろいろな考えやはかりごとを判別することができます。**

Heb 4:13 **造られたもので、神の前で隠れおおせるものは何一つなく、神の目には、すべてが裸であり、さらけ出されています。私たちはこの神に対して弁明をするのです。**

(1) 奨励の根拠

- ①神のことばが働いている。
- ②神のことばには、5つの特徴がある。

(2) 信者は、いつか神の御前で申し開きをすることになる。

- ①神の前で隠れおおせるものは何一つない。
- ②「記憶にない」、「文書は廃棄した」は、神の裁きの座では通用しない。

③神に対して弁明をすることは、恐ろしいことである。

結論：神のみことばの5つの特徴

1. ヘブ4:12

Heb 4:12 神のことばは生きていて、力があり、両刃の剣よりも鋭く、たましいと霊、関節と骨髄の分かれ目さえも刺し通し、心のいろいろな考えやはかりごとを判別することができます。

2. 5つの特徴

(1) 生きている。

①生きている神から出たことばなので、神の性質を反映している。

②霊的に死んだ者を甦らせることができる。

(2) 力がある。

①ギリシア語で「エネルゲス」。

②活発に働いている。その結果、生きていることを証明している。

③コロ1:29

Col 1:29 このために、私もまた、自分のうちに力強く働くキリストの力によって、労苦しながら奮闘しています。

(3) 鋭い。

①鋭利な両刃の剣よりも鋭い。

②エペ6:17

Eph 6:17 救いのかぶとをかぶり、また御霊の与える剣である、神のことばを受け取りなさい。

(4) 刺し通す。

①「たましいと霊」の分かれ目を刺し通す。

*「たましい」と「霊」は、互換性のある言葉である。

*人間の内面の2つの側面を表現する言葉である。

*人間の内面が2分割されているという意味ではない。

②「関節と骨髄」の分かれ目を刺し通す。

*「関節」と「骨髄」は、人間の肉体の2つの側面である。

(5) 判別することができる。

①ギリシア語の「クリティコス」(形容詞)。英語の「critic」。

②「心のいろいろな考え」とは、実際に考えている内容である。

③「はかりごと」とは、内面の動機である。

Mat 11:28 すべて、疲れた人、重荷を負っている人は、わたしのところに来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます。

Mat 11:29 わたしは心優しく、へりくだっているから、あなたがたもわたしのくびきを負っ

2017年8月13日（日）、14日（月） 7回 「第2の警告（2）」

て、わたしから学びなさい。そうすればたましいに安らぎが来ます。

Mat 11:30 わたしのくびきは負いやすく、わたしの荷は軽いからです。」